山形新聞　2025年11月11日（火）朝刊20面

平和、貧困解決 中高生訴え

山辺 安達峰一郎記念弁論大会

中高生が平和の大切さや多様性への理解などを訴えた安達峰一郎記念世界平和弁論大会＝山辺町中央公民館

安達峰一郎記念世界平和弁論大会が9日、山辺町中央公民館で開かれ、県内外の中高生11人が平和の大切さや多様性への理解、貧困解決などを訴えた。最優秀賞は、中学生の部で北海道・立命館慶祥2年の宮本紗帆さん(13)、高校生の部で富山県・富山国際大付属2年の西田七虹さん(17)が選ばれた。

全国から中学生120人、高校生20人の応募があった。原稿審査を通過した中学生6人、高校生5人が出場した。

宮本さんは「あたたかい『いただきます』を」の演題で発表。食品ロスと相対的貧困が同時に起きる社会に疑問を抱き、余った食品を持ち寄るフードドライブなど個々の積み重ねが解決への第一歩になると強調した。西田さんは「平和は小さな一歩から」と題し、富山大空襲に遭った祖父と共に取り組む語り部活動などを紹介。「戦争のない平和な時代は、望むだけではなく、今を生きる私たちがつくるもの」と結んだ。

山辺町出身の国際法学者で、常設国際司法裁判所（オランダ）の所長を務めた安達峰一郎博士の精神を受け継ごうと、山形大認定都市・地域学研究ユニットや山辺町などが主催し、15回目。最優秀賞以外の主な結果は次の通り。（洋数字は学年）

◇中学生の部▽優秀賞 近藤咲菜（北海道・立命館慶祥2）▽特選 奥山由麗（山形大付属3）

◇高校生の部▽優秀賞 藤田彩琴（茨城県・水戸二2）▽特選 井口すみれ（長崎県・九州文化学園1）

（柴崎愛）

読　売　新　聞　　２０２５　年　11月　11日　（火）　朝刊24面

平和への思い 訴え

山辺で弁論大会

最優秀賞を受賞した冨田さん（左）と西田さん（9日、山辺町で）

中高生が平和に向けた思いをスピーチする「第15回安達鋒一郎記念世界平和弁論大会」（山形大、山辺町など主催、読売新聞山形支局など後援）が9日、山辺町山辺の中央公民館で開かれた。

大会は、町出身の外交官で、常設国際司法裁判所（現国際司法裁判所）でアジア人初となる所長を務めた安達鋒一郎（1869～1934年）の平和の精神を受け継ごうと、2011年に始まった。論文審査を通過した県内外の中学生6人、高校生5人が登壇した。

中学生の部は立命館慶祥中学（北海道江別市）2年、宮本紗帆さんが最優秀賞に輝いた。宮本さんは農家が形の悪い野菜を捨てざるを得ない光景を見た経験から、食品ロスについて論じた。「食べ物があるのに捨てられる社会に、食べ物が足りない人たちがいる」という矛盾の解消のため、余った食べ物を必要な人に届ける活動など「一人一人の行動の積み重ねこそが解決の第一歩になる」と語った。

高校生の部で最優秀賞を受賞したのは、富山国際大付属高（富山市）2年の西田七虹さん。富山大空襲を体験した祖父の思いを引き継ぐため、語り部活動を行っており、その経験を「平和は小さな一歩から」と題し、スピーチした。「戦争のない平和な時代は、今を生きる私たちがつくるもの」と戦争の記憶を伝える重要さを訴えた。

表彰式後、東北文教大短期大学部の元教授・阿部康子さんが審査員を代表し、「弁論は自分の体験をとおした、人々に共感を求める生き方の提案。今日の皆さんの提案を我々もしっかりと受け止めさせていただく」と話した。

食品ロスと貧困、祖父の空襲体験…

「平和は今の私たちがつくるもの」

常設国際司法裁判所長をつとめ、平和の実現に尽くした安達峰一郎（1869～1934）を記念した世界平和弁論大会が9日、出身地の山辺町であった。最優秀賞には、中学生の部で食品ロスと貧困の問題を取り上げた立命館慶祥（北海道）の宮本紗帆さん（2年）、高校生の部で祖父の空襲体験をもとに平和への行動を訴えた富山国際大付属の西田七虹さん（2年）が輝いた。

高校生の部で最優秀賞に選ばれた西田七虹さん

中学生の部で最優秀賞に選ばれた宮本紗帆さん＝いずれも山辺町

山辺で弁論大会 中高生11人が登壇

山形大学認定都市・地域学研究ユニット、町などの主催。中高生に平和について考えてもらおうと始まり、15回目になる。全国から140人の応募があり、予選を通過した中学生6人、高校生5人が登壇した。

宮本さんは、形が悪かったりするだけで捨てられてしまう野菜があると農家から聞いた体験を紹介。「食べものが捨てられる社会と、食べものが足りない人々。この矛盾をなくすために必要なのは、一人ひとりの小さな一歩です」と訴えた。

受賞後、「壇上で楽しめた。うれしい」と喜んだ。

西田さんは1945年8月に起きた富山大空襲を祖父から聞いたエピソードや、その祖父の思いを受け継いで3世代で語り部をしていることを紹介。「戦争のない平和な時代は望むだけではなく、今を生きる私たちがつくるものです」と主張した。

表彰式後、「私の弁論が、だれかのアクションにつながればいいなと思う」と語った。

両部門2位の優秀賞と3位の特選は次の通り。（敬称略）

【中学】優秀賞　近藤咲菜（立命館慶祥）▽特選　奥山由磨（山形大付属）

【高校】優秀賞　藤田彩芽（水戸第二）▽特選　井口すみれ（九州文化学園）

（黒川和久）

20251113 朝日⑰

日経新聞　2025年11月11日（火）朝刊41面

中高生、寛容な社会実現へ

安達峰一郎の精神に学ぶ

山形大など15回目の弁論大会

「高校生の部」で最優秀賞に選ばれた西田さん（9日、山形県山辺町）

山形大学などは9日、国際法による紛争解決と平和実現に尽力した戦前の外交官・安達峰一郎の精神に学ぶ弁論大会を出身地の山形県山辺町で開いた。15回目の節目にあたり、県内外の中高生11人が登壇。体験したり調べたりしたことを踏まえ、多様性のある寛容な社会を実現するためには一人ひとりがどう考え、行動すべきかを提案した。

山辺町とNPO法人山形の魅力再発見プロジェクト（山形市）を含む3者で主催した。県内からは4人の中学生と1人の高校生が参加し、約90人の聴衆が生徒の主張に耳を傾けた。問題意識の明確さや構成、発想の独創性、訴えかける表現力などを審査し、中学生と高校生から1人ずつ最優秀賞を選んだ。

立命館慶祥中学校（北海道江別市）2年生の宮本紗帆さんは学校の研修で農家を訪ね、規格外の野菜が大量に捨てられていると知って衝撃を受けたことを紹介。こうしたフードロス問題があるのに、相対的貧困状態にあって満足に食事をとれない人もいる現代社会の矛盾を指摘した。

その解決策として、家庭で余った食品を募って支援が必要な人に寄付する「フードドライブ」に注目。小さな一歩を踏み出すだけで、多くの人が救えると訴えた。

富山国際大学付属高校（富山市）2年生の西田七虹さんは地方都市では人口比で最も多くの犠牲者が出た富山大空襲を祖父や母との3世代で語り継いでいることや、高校生のボランティア団体を通じ平和活動に取り組んでいることを説明。戦前・戦中生まれの人が減っていくなか、戦争体験を伝承する重要度が増していると強調した。

そのうえで国際司法に身をささげる覚悟を改めて示した安達の言葉を引用し、自身も戦争の証言を伝え続ける活動に打ち込み、「戦争のない平和な時代」をつくり出す決意を語った。

山形大の玉手英利学長は「自分の思いや考えを言葉で直截（ちょくせつ）に伝える力を高め、平和な社会をつくることに役立ててほしい」とあいさつ。山辺町の安達春彦町長は「みなさんの主張が混沌とした世界を変える第一歩になることを確信している」と言葉に力を込めた。

1869年生まれの安達峰一郎は日露戦争や第1次世界大戦の戦後処理のための講和会議で活躍。国際連盟発足後は日本代表や理事会議長を務めた。常設国際司法裁判所の所長にアジア人として初めて就いたが、満州事変や国際連盟脱退で日本が孤立していくことに苦悩。心臓病を患い、アムステルダムで1934年に客死する。オランダは国葬で功績をたたえた。

山形 023-622-2072
福島 024-523-4458
山形郡 024-938-7770
022-561
022-233
022-523
022-301